

第1回教育委員会定例会議事要録

詳細—教育部庶務課 電話03-3981-1141

附属機関又は 会議体の名称		教育委員会第1回定例会
事務局（担当課）		教育部庶務課
開催日時		令和8年1月13日 午前10時00分
開催場所		教育委員会室
出席者	委員	清野 正（教育長）、 新井 裕（教育長職務代理者）、岩井 由美子、富士原 紀絵、 猪狩 和子、松宮 徹郎
	その他	教育部長、庶務課長、学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、 指導課長、学校支援担当課長、図書館課長、教育センター所長、 統括指導主事2名
	事務局	庶務課庶務グループ係長、庶務課庶務グループ係員
公開の可否		一部公開 傍聴人 0人
非公開・一部公開 の場合は、その理由		報告事項第3・4号は、個人が特定され得る情報を扱うため非公開とする。
会議次第		協議事項第1号 令和7年度幼稚園修了式、小・中学校卒業式祝 辞のテーマについて（指導課） 報告事項第1号 令和8年度学校閉庁日について（庶務課） 報告事項第2号 『豊島の図書館（令和6年度事業報告）』の発 行について（図書館課） 報告事項第3号 令和7年度子どもスキップ・校庭開放における 事件・事故報告（12月）について （放課後対策課） 報告事項第4号 令和7年度学校におけるトラブル・事故につい て（指導課）

休憩時間 00：00

終了時間 11：00

第1回教育委員会定例会議事要録

開催日 令和8年1月13日

開催場所 教育委員会室

事務局)

委員の皆様、おそろいでいらっしゃいます。

本日傍聴の方はいらっしゃいません。

清野教育長)

皆様、おはようございます。

只今から第1回教育委員会定例会を始めます。

本日の署名委員をお願い申し上げます。松宮委員、新井委員、どうぞ宜しくお願いいたします。

次に、本日、非公開による審議とさせていただく案件の確認をいたします。本日、非公開の案件は報告事項第3号、令和7年度子どもスキップ・校庭開放における事件・事故報告(12月)について、報告事項第4号、令和7年度学校におけるトラブル・事故についての2件です。それぞれ個人が特定され得る情報を扱うため、それぞれ非公開とさせていただきたいと存じます。

ご異議ございませんでしょうか。

(委員全員了承)

清野教育長)

2件について、非公開とさせていただきます。

それでは、議事に入ります。

(1) 協議事項第1号 令和7年度幼稚園修了式、小・中学校卒業式祝辞のテーマについて

清野教育長)

協議事項第1号、令和7年度幼稚園修了式、小・中学校卒業式祝辞のテーマについて説明をお願いします。

指導課長。

<指導課長 資料説明>

清野教育長)

祝辞のテーマについての資料を簡単に説明いただいても宜しいですか。

指導課長。

指導課長)

豊島区の多様性を大事にする学校には、外国籍のお子様もたくさんいらっしゃいます。それから、区長の一人ひとりを大切にするというご姿勢を踏まえまして、今年度はこのようなテーマにさせていただきたいと考えております。

小学校におきましては、違いを認め、誰もが尊重し合うことが必要であったり、誰かに言われた通りに進むだけではなく自分で考え、選び、行動する力。また自分や他者を大切にし、自分の未来を切り開く。中学校に向けては失敗を恐れずに挑戦をしてほしいというところを大切にしたいと考えました。

中学校におきましては、人の違いを否定するのではなく、違いのあることを前提に認める多様性。全員を同じように扱うことではなく、それぞれに必要な支えや機会が行き届くように考える公平性。誰一人取り残されることなく、ここにいていいと感じられる社会をつくる包摂性。社会に向けてということで、多様性、公平性、包摂性を大切にする社会の担い手として、自分の人生を自分の力で切り開いていってほしいという願いを込めた文章にしたいと考えております。

幼稚園におきましては、幼稚園児が分かるようにお祝いの言葉、それから保護者に向けたご挨拶という内容を中心に考えさせていただきたいと思っております。

参考としましては、今年度デフリンピックがありましたこと、豊島区出身の選手が参加をしていること、また、もしエピソードを入れる形になるのであれば、ノーベル生理学・医学賞、ノーベル化学賞等を踏まえたものにするのが適切だろうと考えております。

清野教育長)

指導課長、今回提示された告辞は、例示でしょうか。具体的な文章がないと、なかなか議論するといっても難しいと思いますが。

指導課長。

指導課長)

区長から、少し格調高い文章にというお話をいただいていますので、従来よりは難しい形です。告辞文として出す地区も多くありますことから、このように参考として案を作らせていただきました。

清野教育長)

それでは、是非忌憚ないご意見をお願いできればと思います。まだ時間的にも余裕がありますので、今日はいろいろなアイデアを出していただくという時間になればと思います。

岩井委員。

岩井委員)

格調高くということに気を付けながら、去年読ませていただいたものとは随分形が変わっているというところで、しかも豊島区としてお伝えしたいことはしっかり入っていて、初めの感想では、とても完成されて良いものだなと思いました。

この中に豊島区というフレーズが3回出てきます。確かに豊島区に育てていただいた子

どもたちですので、これはとてもいいことだと思います。そこに卒業、送り出す、門出を祝うおめでとうという心が添えられたら良いのかなという感想もちました。格調高くという形でまとめていくのはもちろんいいですが、例えば、そこに何かプラスして、これはこれで、最後に少し記憶に残る卒業式、教育委員会はこういうことを言ってくれたなということが残る、名言や格言がどこかに入って、それを贈る言葉のエピフライの尻尾といいますか、プレゼントのリボンの部分といいますか、そういうところで記憶に残していただけたらという気持ちもしました。

例えがいかどうか分かりませんが、ウォルト・ディズニーは「夢見ることができれば、それは実現できる」という言葉を残しています。魯迅は「後ろを振り向く必要はない。あなたの前には幾らでも道があるから」という言葉を残しています。こんな短い言葉ですが、何か心に残る言葉が入ると、その格調高い部分がより対比で、印象に残るのかなと思いました。

私もそうだったのですが、多くの子どもや保護者は、教育委員会というのはとても堅くて、立派で、遠い存在と思っています。卒業式という最後の最後に来て、教育委員会というのは、こんなに近くでいつも見守ってくれていたんだということを分かってほしいという思いもございます。そこを何か入れていただけるといいと思いました。

地域や先生方へのお礼を述べるとともに、やはり子どもと保護者が喜んでくれる、みんなで安心してここを出ていけるというような形がいいと思いました。

最後に一つ、これは言葉の問題ですが、この中に「保護者の皆様」というのがなかったので、是非おめでとうの中に「保護者の皆様」という言葉を入れていただけると、本当に保護者は喜ばれると思いました。

清野教育長)

猪狩委員。

猪狩委員)

先程も少しお話に出ましたが、告辞というのは子どもたちや保護者の方には、なじめないとか、違和感を覚えるのではないかと思います。主体は子どもたちですので、子どもたちに卒業おめでとう、これからの新しい未来に対して応援するというような、もう少し分かりやすい言葉で、親しみがある方がよいと思います。先ほども言いましたが、「卒業お祝い申し上げます」よりも「皆さん卒業おめでとう」というような言葉が一言あった方がよいのではないかと思います。

やはりエピソードは入れる。入学式の祝辞でもピアニストの方のエピソードが入っていました。ですから、そのような身近な方のデフリンピックの2名、豊島区から出ていらっしゃるし、私、理系女子としてはノーベル賞の様々な苦しみや大変なことがあったけれども、それを何年間か我慢してここに結び付いたというようなことを入れていただく。今、理系に進む方がとても少ないので、ノーベル化学賞、医学賞、両方とも日本人が取ったというのは本当にすばらしい出来事だと思います。

やはり、小学生もテレビを見ていて素晴らしいと思っていますし、順風満帆に行っただけではないんだと。多様性というところで、研究とか、興味のあることを、みんなで突き詰めていく。一人ひとりが突き詰めていくということがとても大切なんだと。

少し離れますが、皆さん研究費がなくてたいへん苦勞していらっしゃるの、日本は、基礎研究が非常に少ないです。基礎研究の少ない予算の中から、このような研究が生まれてくるんだと。研究は目に見えない、教育も医療も目に見えませんが、基本的な研究にお金をかけることによって、ノーベル賞のような立派な研究が出てくるんだということを、ノーベル賞の方も訴えられていました。

中学生の理科の授業を拝見したとき、鉄を燃やしたときに色が変わるのは何故かということをしていました。1人の中学生がグループの中で「これは酸素と結び付くから色が変わる、酸化鉄に鉄が変化して、色が変わるんじゃない」と言ったので、「君、素晴らしいわね、ノーベル賞を取るんじゃないの」と、思わず後ろで見ていて言っていました。

ですから、エピソードを少し入れていただきたいなと強く思っております。

清野教育長)

他の委員の方々、いかがでしょう。

新井委員。

新井委員)

今、猪狩委員のお話もなかなか意味深いと思って聞いていましたが、私はこの告辞というかどうかについては、教育委員会で決めていけばいいことかなと思います。告辞でも、祝辞でもいいです。本来告辞なので、告辞という形で学校に伝えと、それが式次第にきちっと載っているかもしれませんが、それはそれで私は、どちらでもいいのかなと思います。

ただ文量的にも、今回の小学校のテーマについてはいいのではないかなと思いますが、内容が学習指導要領であったり、ある程度子どもにとって抽象的な、概念的な話、豊島区の状況などが多いですね。これは分かりますが、子どもにとってとっつきづらい部分というの、もし一般論的に、このように抽象的な部分で書いていくのであれば、誰に聞いても分かりやすいというか、聞きやすいような内容で、トーンを少し格調高いとは別に作っていくと6年生にも理解しやすいのかなという気がいたしました。

総じて、何々の力、何々力、何々力という力の羅列的な感じもしますので、子どもたちが聞いていてどうだろうなというイメージはあります。もちろん、この内容が非常に格調性という面で見ると高いのですが、工夫した方が宜しいかなと思いました。

それから、少し細かい話ですが、卒業証書の授与の部分、やはりここの力という言葉がかなり出ていますね。校長も「君たちに、こういった力がついたんです」みたいなことを言いますので、この辺でまた力、力で行かなくても、ここは軽く作った方がいいのかなと思います。

それから本題に入ると、まさにエピソードがないわけですから聞いている方はつらいですね。エピソードの良さは、やはり聞きやすいですよ。例えば、ノーベル賞を取った年は、ノーベル賞の話が出ると、偉人というのはこういう努力をしているんだなということで、イメージがそこに落としやすいというか、聞きやすいです。ただ、概念的な話だと、なかなかそこへ落ち込まないというか、聞いていて、ただ長さを感じるような気がしますので、エピソードの価値は、実はそういうところにあるのかなと私は思います。

そういったところでいうと、もしこういう概念で書くのであれば、もう少し優しいトーンで概念を書いた方がいいのかなと思います。例えば、「自分と異なる背景や価値観」このような言葉とか、「様々な人々の協働」などはよく文言として書かれていますね。でもこれを読むと、聞いている子どもたちは結構難しいなと、どういうことかなと分からなくなってしまうがちなので、もう少し言葉を工夫して、「様々な人とともに考え合いながら」とか、優しい言葉でも格調は伝わると思うので、そのようなことでもいいのかなと思ったりしました。

多様な他者とか、協働という言葉は豊島区はよく使いますが、祝辞では、もう少しかみ砕いて言ってあげた方がいいのかなと私は思いました。いずれにしても、この祝詞は看板的な部分にもなりかねないので、慎重に言葉を選んでいきたいと思います。ですから、読む側にとっても読みやすいし、聞く方にとっても聞きやすいものにされた方がいいと思います。

一点だけ、「卒業おめでとうございます」がありませんよね。これを読んでいくと、いきなりひな壇に上がった人はそのまま読むわけで、そうするとお祝いを言うアドリブが効く人は、「皆さんおめでとうございます」と言うのでしょうか、もうそのまま祝詞だから読むという人はそのまま読みますので、一言さすがに入れてもいいと思いますが、「ご卒業誠にありがとうございます」というと、狂いはないですよ。そのようなことも配慮して書かれるといいのかなと私は思いました。

いずれにしても、まだまだこれからだと思いますので、早めにできたら学校に伝えてあげれば、学校はまだ十分対応ができると思います。

清野教育長)

富士原委員、いかがでしょう。

富士原委員)

私は去年初めて仰せつかって、代読させていただきましたが、そのまま読み上げるものだと思って、一字一句たがえず読み上げましたので、今、新井委員がおっしゃったような、本当でしたらまずは冒頭で「おめでとうございます」という一言があるべきなのかなと思いました。

確かにとても指導要領的な内容がきちんと盛り込まれているというのはもちろんいいことですが、エピソードとか、岩井委員がおっしゃったような、刺さる、格調高い一言があってもいいのかなと思います。

エピソードを扱う際には、今の子どもたちは昔と違って、おそらくニュースを見るとか、

新聞を読むとか、とても世事に対して共同経験が少ないので、本当に誰もが分かるという、人物のエピソードやそのようなものを何かご検討いただければと思います。

清野教育長)

松宮委員、いかがでしょう。

松宮委員)

非常に難しいということが本当によく分かります。

まず告辞か祝辞かに関しては、私自身はどっちのところまでありませんが、おそらくいろいろな周りの自治体の状況とか、豊島区の区長部局などの一つの狙いというか、ある意味好みみたいなのところがあるのかなと思うので、慎重に検討していただいて、どちらか決めていただくのであれば、それでいいのかなと思いました。

内容に関しては一つ、多様性というのはやはり一つの教育の場でのテーマ、自分を磨くプラス、みんなで集まって集団生活する中で周りを尊重するというおそらく二つですね。自分の好きなことを見つけたり、自分を大切にすることと、それをきちっとその集団生活の場で、相手を尊重しながら発揮していくという、主に後者の方の話かなというように思います。もう一つ、自分を大切にするとか、自分が何をしたいかを考えてほしいというのは、大事なテーマだと思うので、そのような二つの視点があるといいと思いました。

やはり生徒に入っていく言葉が一番大事だと思いますので、工夫していただければと思います。

清野教育長)

猪狩委員。

猪狩委員)

先程、岩井委員がおっしゃったように、「結びに当たり、校長先生はじめ教職員の皆様」のところに、保護者の皆様、地域との結び付きがとても強いので、交通指導員や地域の行事を教えてください方など、それから学校医、いろいろな人が子どもたちを育てるに当たって携わっているわけで、卒業式に参列されていらっしゃると思いますので、「地域の皆様」その言葉を一言、入れた方がいいと思います。

清野教育長)

改めて、卒業式で教育委員会がどのようなメッセージを皆様に発するかというのは、本当に注目を集めると思いますので、是非我々が子どもたちや保護者に対して、どんな思いがあるのかということが伝わるようなメッセージを一生懸命考えたいと思います。まだ少し時間ありますので、是非またお知恵をいただければと思います。

それでは、協議事項第1号はここまでということで、了承いたします。

(委員全員異議なし 協議事項第1号了承)

(2) 報告事項第1号 令和8年度学校閉庁日について

清野教育長)

報告事項第1号に入ります。令和8年度学校閉庁日について。

庶務課長。

<庶務課長 資料説明>

清野教育長)

この件について何かご意見等がございましたらお願いいたします。

猪狩委員。

猪狩委員)

これは昨年と同じ期間になるのでしょうか。

清野教育長)

庶務課長。

庶務課長)

学校閉庁日ですね。8月と12月ないし1月に設けておりまして、5日間、同じ日数でございます。

清野教育長)

私から、1点。ないことを願いますが、本当に万が一、どうしても学校と連絡を取らなければいけないような事案が発生したときには、例えば役所に電話をいただければ、それを場合によっては校長や副校長に回すというようなことができるのかどうか。そこだけ確認をお願いします。

庶務課長。

庶務課長)

学校閉庁日期間中には、保護者の方に教育委員会からすぐー等を使って、もし子どもたちに事件・事故があったら、警察など関係機関ないしは教育委員会に連絡をしてくださいということで、保護者に通知をしているところでございます。

また、校長先生は公用携帯を持っておりますので、教育委員会から学校長には常に連絡を取れるような形にはなっております。

清野教育長)

宜しいでしょうか。

それでは、本件了承といたします。

(委員全員異議なし 報告事項第1号了承)

(3) 報告事項第2号 『豊島の図書館(令和6年度事業報告)』の発行について

清野教育長)

続きまして、報告事項第2号、『豊島の図書館(令和6年度事業報告)』の発行について。

図書館課長。

<図書館課長 資料説明>

清野教育長)

それではご意見等お願いいたします。

猪狩委員。

猪狩委員)

これだけ細かく資料を載せていらして、本当に素晴らしいと思いました。

この間、大正大学の素晴らしい図書館を見ましたが、図書館の機能として本を見るだけではなくて、学校には行けませんが図書館に行ったら勉強したいとか、先程の多様性と研究の話ではありませんが、特殊なことにとっても興味のある子が、学校では学べませんが図書館に行ったら学ぶことができます。CDの貸出しやビデオの貸出しも含めて、図書館の多様性、多様な機能というのが求められる時代になってきていて、なかなかそこに追いつくというのは予算も要るし大変だと思いますが、新しい図書館を目指してやっていたらいいのは素晴らしいと思いました。

これはどういうところに配られますか。

清野教育長)

図書館課長。

図書館課長)

ペーパーレスということで、冊子の印刷は今大分縮小して、教育委員の皆様と教育部と、各課に1冊ずつというようになっております。また、先程もご案内させていただきましたが、ホームページにはアップされておりますので、すぐにご覧になれます。

猪狩委員)

印刷して配るとするのは、冊数が限られるということですね。

子どもは二次元コードに慣れているかもしれませんが、なかなかお年寄りや大人の方は、慣れていませんので、チラシなどをみんなが集まるような集会場にだけでも置くなど、必要かなと思いました。

清野教育長)

図書館課長。

図書館課長)

せっかく作った冊子ですので、工夫していきたいと思います。

清野教育長)

富士原委員。

富士原委員)

事前に報告書等を拝見させていただいて、そうだったのかということを改めて思ったことがありました。先程もひかり文庫を充実させていかれたいということで、おそらくふたばの会がもう活動を終了したのかと思ったのですが、日本でも豊島区のふたばの会のさわって楽しむ本は、バリアフリー図書の画期的な取組だった、契機の活動だったはずですね。たしか、偕成社などが全面的にバックアップして行っていたと思いますが。

今、日本でバリアフリー図書館のトップランナーというと板橋区の図書館が挙がってい

ますが、前いただいた資料を見て、板橋区よりも先に豊島区が本当は日本のトップランナーだったはずと思いました。充実させるのはいろいろな方法があると思いますが、やはり子どもたち、最後のページのりんごの棚、北欧など福祉国家で取り組んでいること、豊島区は率先してやっていて、さわる絵本など目が見える子どもたちは知らないと思います。そういうものも豊島区にはいろいろあるということを知って、図書館に来る足がかりみたいなものをつくって、そういうことに対する認識も深め、あるいはそれを契機に、「図書館ってこんななんだ」ということを学んだり、足を運ぶ一つとしてひかり文庫やりんごの棚などを学校教育で是非活用していただいて、地域の図書館に子どもたちが足を運ぶという、何か企画とか方向性を充実させていただければと思います。先程、そういう方向性でおっしゃっていましたので、期待しております。

清野教育長)

図書館課長。

図書館課長)

いろいろな方法で試していきたいと思いますが、先日子ども会議がございまして、図書館に対する要望が子どもたちから34個も出てきました。その中にやはりPRをもっとしてほしいという要望があったので、今できることとして、図書館の方から各学校にこんなイベントやりますよというチラシを既に送るようにしていますが、例えばそのようなツールをつくったり、いろいろな他のツールを使って、点字図書館としてもPRをしていきたいと思っています。

清野教育長)

では、私から一点。今子ども会議の話がありましたが、子ども会議のトピックが多文化共生と区民ひろば、そして区立図書館で、それぞれの取組について子どもたちから意見をもらうという流れなのですが、図書館に対する意見が34件ということで、突出して多くて、他の二つのトピックについては10に満たないような数でした。子どもたちにとっての親しみやすさ、分かりやすさという部分もあったのかと思います。

一つ、宣伝させていただくと、この34の取組について、全て既にやっています、やり始めました、あるいは今後取り組みますということで、当日参加された区長も図書館課で34実現をしていこうということを、非常にやる気があるなということで喜んでいらっしゃいました。先程、富士原委員から、「いや、トップランナーは実は板橋区じゃなくて豊島区なんだ」と。

富士原委員)

私、ふたばの会は、板橋区の会だと思っていました。豊島区だったというのを見て、びっくりしました。

清野教育長)

今職員もモチベーションを高く、しっかり図書館を充実させていこうという意欲が本当に感じられるので、是非そういう職員の皆さんが報いられるような形で、図書館課長に導

いていただいて、今みたいに、「いや、トップランナーは豊島区なんだ」ということを、区民の皆さんを含めて分かるような形で、いろいろなアナウンス、周知徹底を含めて、いろいろなことに取り組んでいただきたいと思います。

是非その辺、宜しく願いしたいと思います。

図書館課長)

かしこまりました。ありがとうございます。

清野教育長)

新井委員。

新井委員)

団体貸出のところですが、小学校との連携がだんだん強まってきて、以前より数値も上がっているところも多いと思います。一点、池袋図書館のこの推移ですが、他に比べると伸びがどうなんだろうという気がするのですが、何かわけがありますか。

清野教育長)

図書館課長。

図書館課長)

原因については、よく調べてみないと分からないところもありますが、全体の蔵書数も少ないとあります。池袋図書館に限らず、この団体貸出とか学校連携についてむらがあるというのが現状でございまして、このむらを何とか、少ないところは多く、多いところは多いままという感じで推進していきたいと考えていますので、その原因などを分析いたしまして、少し良い方向に持っていけるように努力したいと思います。

新井委員)

是非、お願いしたいと思います。やはり子どもたちにとって、図書館と連携するというのは非常に楽しみなはずですから、PRをしていくことと同時に、学校に足を運んでいただいて、図書館、公立図書館の良さをどんどんPRしていただきたいということ。

もう一点は、古い本ですね。図書館で古い本を見ると、子どもたちの心理として、借りない、読まない、手に取らないというのは、これはご存じだと思いますからなるべく早い段階で、古い本は廃本にしていくというようなサイクルをつくって、予算も少しずつ取れていると思いますので、是非新しく良い本を、ピカピカの本を図書館に備えていただきたいというお願いでございます。

清野教育長)

私から、もう一点。昨日、子ども会議のときに子どもたちが、「どうやったら区立図書館の方にも足を運んでくれるんだ」という話になったときに、「区立図書館の司書と顔見知りだったりすると、区立図書館に行きやすい」ということを言っている子どもたちもいました。先程課長からも、「せっかく図書館が教育委員会に入ったので、学校との連携を是非密に」というお話がありました。区立図書館司書の方に、忙しいとは思いますが、学校に足を運んでもらって、子どもたちと知り合いになって、「本がなかったら今度区立図

書館に来てね」くらいの感じで、いざなってもらえるとありがたいなと思っていますが、その辺、少しコメントをいただけますか。

図書館課長。

図書館課長)

教育長が今おっしゃった通り、おととい、子どもたちに直接話を聞く機会がありまして、やはり顔が見えるいつもいてくださる司書だと話を聞きやすいけれど、いきなり知らない人がいるとちょっとという意見があったので、足しげく通わなければいけないなということを強く感じましたので、いつも行くとそこに優しそうな司書がいるけれど、あの司書はどこかの区立図書館の司書だと言ったら、そこに行ってみようというように流れを持っていければいいなと思いました。

とはいえ、なかなか時間に限りがあるので兼ね合いが難しいですが、司書はみんな子どもたちが大好きですので、なるべくそのような機会を積極的につくっていきたいと思っています。

清野教育長)

猪狩委員。

猪狩委員)

以前、図書館に対する詳しいアンケートを見せていただいて、司書や窓口にいる方がもう少し優しく接してほしいとか、なるべく子どもが好きな人を置いてもらってという意見がありました。窓口にいらっしゃる方は、図書館の顔でいらっしゃると思うので、アンケート結果を皆さんに見ていただいて、子どもたちに特に優しく、親切に対応していただければと思います。

清野教育長)

松宮委員。

松宮委員)

私も図書館が好きなので、活用してほしいと思います。すぐーるなどでも広報をしていますか。

清野教育長)

図書館課長。

図書館課長)

すぐーるも始めましたので、更にPRをさせていただきたいと思っています。

清野教育長)

宜しいでしょうか。

それでは、本件了承といたします。

(委員全員異議なし 報告事項第2号了承)

(4) 報告事項第3号 令和7年度子どもスキップ・校庭開放における事件・事故報告
(12月) について

清野教育長)

続きまして非公開の案件に入ります。

報告事項第3号、令和7年度子どもスキップ・校庭開放における事件・事故報告について。

放課後対策課長。

個人が特定され得る情報を含む案件のため非公開

(委員全員異議なし 報告事項第3号了承)

(5) 報告事項第4号 令和7年度学校におけるトラブル・事故について

清野教育長)

続きまして報告事項第4号、令和7年度学校におけるトラブル・事故について。

指導課長。

個人が特定され得る情報を含む案件のため非公開

(委員全員異議なし 報告事項第4号了承)

清野教育長)

他に全体としてご意見ございませんでしょうか。

ないようでしたら、以上で教育委員会第1回定例会を閉じさせていただきます。どうもありがとうございました。

(午前11時00分 閉会)